



ここに技あり！

津山地域の

金属加工技術の今

江戸時代、城下町・津山には、多くの職人たちが集まりました。市内には今でも、金属工業のまちだったことに由来する「鍛冶町」「鉄砲町」などの地名が残っています。時代は流れ、産業技術の発展とともに、高精度・高品質の製品が求められるようになりました。

つやま産業支援センターでは、地場産業の一つである金属加工産業の発展に貢献するため、企業43社の集合体「津山ステンレス・メタルクラスター」を作り、加工技術の向上や、企業間のつながりを促し、次世代金属産業の成長に取り組んでいます。津山ステンレス・メタルクラスターに加盟している企業3社の取り組みを紹介します。つやま産業支援センター（みらい産業課内・東庁舎1階）☎24-0740



金属を溶接加工する様子

つやま産業支援センターを紹介します

製品の付加価値を高めて 全国・世界に発信していきたい

株式会社本山合金製作所（綾部）

「超硬合金」を作っています
ダイヤモンドの次に硬い物質といわれている特殊素材「超硬合金」を原材料から製造し加工しています。加工が難しく、ダイヤモンドの砥石や、電気力を使っています。1000分の1ミリ単位で加工する高度な技術を持った職人が多くいます。超硬合金は、電子基板や燃料電池など、多くの工業製品作りに役立つので、求められる役割も大きくなっています。



代表取締役 松本秀彦さん

ダイヤモンドの硬さを100とすると、鉄系の金属が40~60であるのに対し、超硬合金は90前後です。超硬合金は、摩耗しにくいので、高度な精度を求められる工業製品作りに使われています。



①超硬合金を加工し、金型部品を作る様子
②本山合金製作所の外観

世界シェア50%以上の製品を作っています
超硬合金の製品以外にも、工業用スプレーノズルを製造しています。テレビ・スマートフォンなどの液晶画面や半導体などを製造する時に欠かせない「エアリーナイフ」というノズルは、加工精度が認められ、世界シェア50%以上を誇っています。大量生産ではなく、取り引き先の細かい要望に合わせて、設計・製造しています。このため、世界中の企業に受け入れられています。

つやま産業支援センターと協力
エアリーナイフは、ステンレスの薄い板を加工して製造します。薄くて長い金属の加工は、反りやゆがみが発生するので、直すのに時間と費用がかかります。つやま産業支援センターの協力で、専門家や津山工業高等専門学校と一緒に取り組み、反りを最小にすることができました。今後、産学官の連携で難しい加工に挑戦し続けていきたいです。

超硬合金の製品以外にも、工業用スプレーノズルを製造しています。テレビ・スマートフォンなどの液晶画面や半導体などを製造する時に欠かせない「エアリーナイフ」というノズルは、加工精度が認められ、世界シェア50%以上を誇っています。大量生産ではなく、取り引き先の細かい要望に合わせて、設計・製造しています。このため、世界中の企業に受け入れられています。

今後、産学官の連携で難しい加工に挑戦し続けていきたいです。

- ①株式会社菅田のジュエリー工場
- ②株式会社津山銘木のまな板づくり



そのほかの開催の様子は
こちら (<https://www.facebook.com/tsuyamaopenfactory/>)



**工場・会社の
魅力を発見！**

つやまエリアオープンファクトリー2019を開催しました
つやま産業支援センターと美作県民局は、7月26日・27日、つやまエリアオープンファクトリー2019を開催しました。2380人が、津山圏域の工場・会社を見学したり、体験したりして、ものづくりの魅力に触れました。

会員企業の声を紹介！

つやま産業支援センターで、有益な情報の提供や専門家の助言、技術向上のための研修など、企業の成長に繋がるきめ細やかな支援を受けています。津山地域の企業が発展していくための頼りになる存在です。

活動の様子は
こちら
(<https://www.facebook.com/tsuyama-biz/>)



フェイスブックQRコード

Q つやま産業支援センターとは、どのようなところですか？
A 津山地域の企業が抱えるさまざまな問題を解決するための相談を受けたり、事業を行ったりするところです。
Q どのような活動をしていますか？
A 企業の生産性の向上や付加価値の高い製品の開発、販路の開拓、創業の支援や、人材育成などに取り組んでいます。専門家、商工会議所や商工会などの支援機関、金融機関と協力し、企業を支援しています。